

G-85

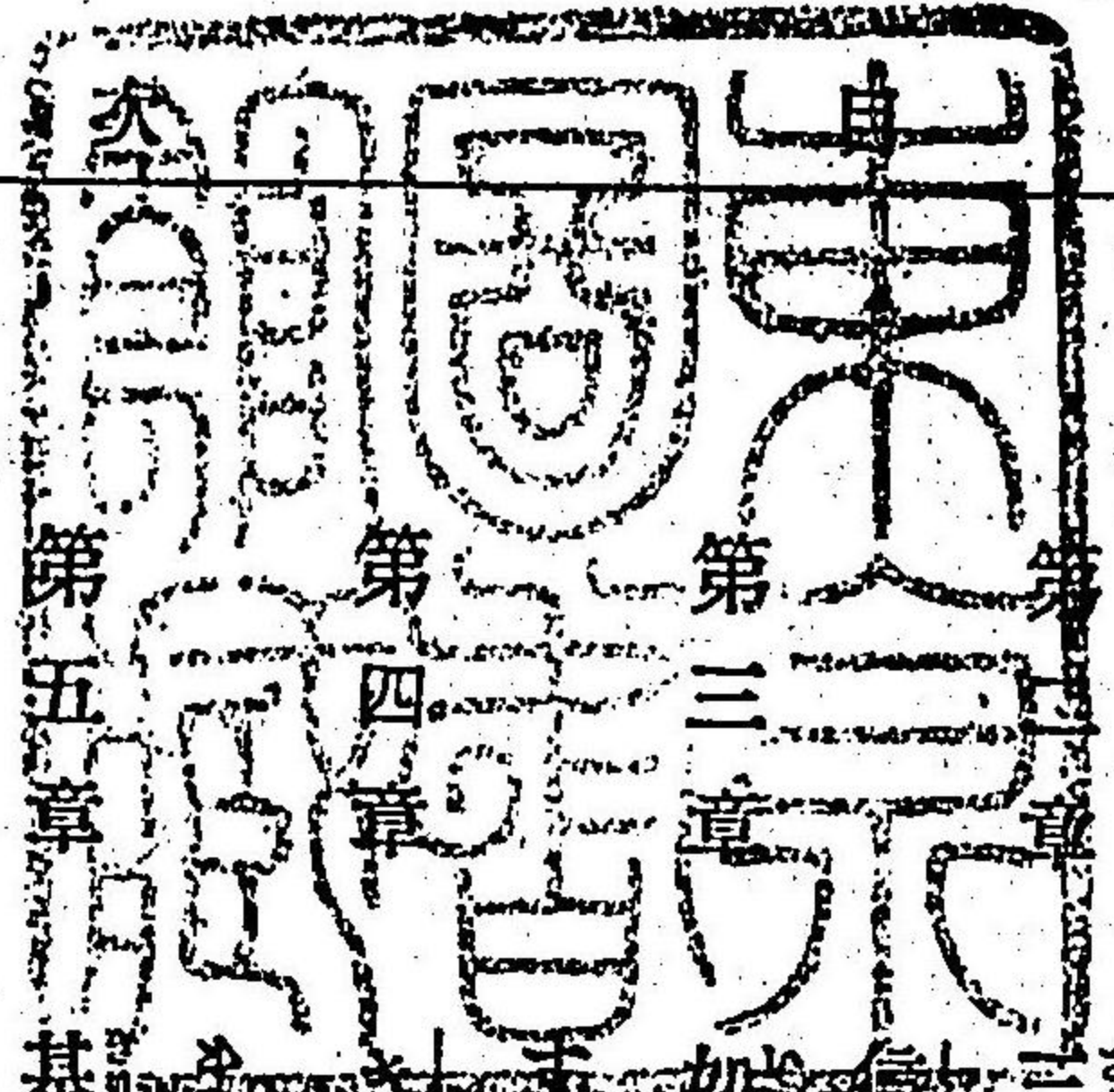


The reasons why  
I believe

由<sub>ゆ</sub>理<sub>り</sub>が信<sub>しん</sub>を事<sub>こと</sub>した神<sub>かみ</sub>の智<sub>ち</sub>基<sub>き</sub>

The Divinity  
of Christ.





基督の神たることを信ずる理由目次

第一章 緒言

三一 合一の神を信せば基督の神たることを

信ずるは當然の事です

如何に論じ如何に考ふるも基督は即ち神で

キリストは人間の範囲内に入ることば出来

ませむ

基督は歴史上神として崇拜されて来ました

第六 基督の神たることはキリスト教の要領です

第七章 結論



基督の神たることを信する理由

第壹章 緒言

近頃米國よりユニテリアンてふ(宗教と云ば)宗教の様な者

如何の譯か、遙るく太平洋を越て、日本に來まして

學者や官吏や新聞記者などを鹿鳴館に招き、御馳走の

御蔭で自分の教理を擴めやうとしたり。何んだか理屈張た

ことを述べ立てた雑誌を發行しまして。大膽にも基督は私

共と同じやうに人間である。其人間のうちでも秀たもの言

葉を換て言へばつまり支那の孔子、印度の釋伽、希臘のソク

ラテスの如き君子である。豪傑である。主張し。我々基督信

者がキリストを神と信するのは何にか學理上から眞理に

附合せぬものである様に嘶したて。唯に世人を迷はす許り

(一)

でなく。既にキリスト信者となつた者までも、穿に陥し入れ。基督教會を騒がした。が。つまり世人が此教へに迷はさるゝのは。彼のユニテリアンの論ずる處は。可成日本人の心に逆らはないやうに、亦餘り今迄信じ來りました信仰を變ぜずとも。自由に仲間入をさせますからです。ユニテリアンは進歩したるキリスト教だとか。學理に符合したる教であるとかいふ様な耳新しい言葉に釣られて引込まれるのです。亦基督信徒でありながら。此の宗教に轉居しました者を見ます。眞實聖書を研究して。基督の眞味を嘗めた者ではありませぬ。眞實聖書を研究して基督を味つた人であれば。さういう誤謬に陥る筈はありませぬ。私は此小冊子に於て。聖書は神の與へ玉ひたる書物である。其うちに記載してあ

る基督のこと及び其贖罪については、少しも誤りなく確信すべきものであると信ずる人なれば。キリストは神でないとか。或はキリストは唯人間であるとか言つて主張するは、實に道理に反して居て。恰も明盲者の如く聖書を手に持ちながら。其聖書に記載してあることを知らない者である。云ふことを説き、亦我々基督信者が基督を神と呼ぶのは。詩人が人の秀でたる者をば形容したる言葉である。信ずるものでなく。徹頭徹尾。一より十、「い」より「す」に到るまで。基督は神である。神は基督である。と信じ。其信仰は岩石の上に建築されたる者であつて。如何なる學問の風が吹き來るとも。如何なる哲學の洪水があるとも。斷乎として少しも動かさず。巍然雲中に聳へて變動を受けない譚を論じたいと思ひます。

第二章

三一合体の神を信せば基督の神た

真神は唯一であつて二つと無いものだと教へるのは。基督の他の宗教と異なる所ですが。キリストを神と言ひ。亦聖靈を神と云ひ。猶父なる神もあると教ふるは。取りも直さず自家撞着の議論であつて。道理上如何して「三」を「一」と云ひ「一」を「三」と言ふことが出来ますか。神は一であつて而して基督か。神だと云へば。キリスト教は唯一の神しかないと教へるから。聖靈の神。父なる神。子なる神。他に神のある筈はない。故に父なる神が神であれば。基督が神でない。其を神と信ずるは妄信である。「三」を「一」と云ひ「一」を「三」と言ふは。理に反して居ることだと「ユニテリアン」のものが言ひますが。成程一寸考へ

て見ますれば。最もらしいが。神は唯一であつて。基督を神と言ふは。道理に反して居ることとせうが。亦た「三」にして「一」にして「三」なるものがありますまいか。亦た聖書に三一合体の神の教理は。明らかに教へてあります。此等のことは。基督を神である。と確信するに。先ち。公平。無私。虚心。平氣。眞理を重ざる。眼光を以て研究せねばならぬ。問題です。此問題に入るに。先ち。心せねばならぬ。こと。は。此等のことは。果して道理に反して居ることとせうか。何れか。能く断定せねばなりません。道理に反して居ると云ふこと。と。道理が了解せぬと言ふことは。殆ど天地の差異があります。譬へば。食物は如何言ふ。工合に身體を成長させて行きますか。食物を喰へば。身軀が成長して

行くと言ふことが了解して居つても、たう言ふ工合に成長して行くと言ふことに到つては解りません。如何様な哲學者でも如何様な神學者でも、如何言ふ工合に「三」が「一」になつて居るか、亦「一」が「三」になつて居るか、其緻密の關係について「一」から「十」まで理解することができません。若し道理に違反して居ることが出来ませむからと言って、すぐに其は道理に違反して居ると言ふことは出来ませむ。若し道理に違反して居ることもなれば、誰れが其を眞理であると信ずる者がありません。せうか、けれども充分に物の道理が了解せずとも、既に其知れて居ることが道理に違反して居らぬ以上は、其を眞理と信ずることは決して道義に違ひして居りませむ。我々は充分に三一の理を知得した者だとは言ひませぬ。或論者が申し

ますのに三一の神と言ふことは、恰も田中と言ふ背の高ひ人と、田口と言ふ中背の人と、田村と言ふ背低ひ人と、亦唯に身軀の異なるばかりでなく、性質も丸で違つて居る。此の「三人」のものも「一」と言ふ様に思ひ、父なる神とキリストなる神と聖靈の神とは丸で性質の異りたる。亦位も上下ある者で有て、而して三者合一と云ふ様に考へ違ひをします。我々は決してそんな馬鹿らしいことは信じませむ。亦道理上信ずる筈もありませむ。我々の三者合一と信ずるのは、田中、田口、田村と言ふ様に丸で性質の違つた丸で智情意の異つた。「三人」を「一」と言ふのではありません。智も情も意も皆一です。權威も上下はありませぬ。智識も優劣はありませぬ。此三者が合したものは即ち一軀です。即ち一位です。即ち同質です。即ち

神です。今其定義を示して論じたいと思ひます。

第一 父と子と聖霊は「一つ」です。惟一の神です。

第二 父と子と聖霊は奇妙に分離せしむること

第三 父なくば神にもあらず、亦聖霊なくば神

にもあらず。猶基督なくば神ではありま

第四 父と子と聖霊と三者合躰して始めて神

以上述べましたのが我々の三一の神の明白なる定義です。

これでも三一合躰の神の教理は道理に反して居りますか。

世に三にして一。一にして三なる者がありませんか。ありま

す即ち太陽の光です。虹です。熱です。これ皆太陽の光線です。

即ち「一つ」です。けれども「三」つです。互に分離せしむることの

出来ない性質を帯びて居ります。故に何れにても其一を欠

きますれば即ち光線ではありませむ。斯の如くに父と子と

聖霊は「一つの神」です。三一合躰の神の眞理は。聖書の教ふる最

も勢力ある最も明白なる教理です。亦道理上智力を満足せ

しむる教理です。故に基督なる神が肉を取りて世に降り玉

ひたることを信ずるも。決して道理に反した事ではありま

せむ。虹は地にあつても太陽は蒼空にあつても。太陽の光線

は分たるともなく。猶依然と輝て居るごとく。キリスト

なる神。地にいますとも。父なる神は猶天にまします。神の一

なることは分つことができません。世む、三一合躰の眞理が明白

であつて信ずべきものでありますればキリストを神と信  
ずるは將に理の當然のことではありますまいか。キリスト  
信者が三一合躰の神を信じ、キリストを神と信ずるのは妄  
信ではありませむ  
第三章 如何に論じ如何に考ふるも  
世の中の人々がキリストをば虚言を吐く者である。發狂人で  
あると断定してしまへば兎も角。苟も基督の言論行爲をば  
公平無私虚心平氣の眼を以て觀察し。而もミルの如く「基督  
は理想的人類の代表者及び其案内者なり」と言ひ。亦レキ  
の如く「基督は最も高尚なる徳の型なるのみならず亦其徳  
を行なはしむる力をば注入せしむるものなり」と言ひ。亦彼

の約翰が基督一代記を著の劈頭に於て「太初に道あり道は  
神と共にあり道は即ち神なり」(約翰一の一)なぞどの言葉  
を見れば決して人ではなく神であると言ふことが最も明瞭  
です。先年アンドレアス・バグナルの神學博士シチュアルド氏が希臘  
語に基き。此短句を利刀として、ユニテリアンに向て戰を挑  
み。最も有益なる演説をなした。且つ其れを世に公にしませ  
が。今日に到るも誰れ一人其著述に反對した者がありません  
む。基督を神と信せぬ人は約翰傳第一章第一節を削除する  
か。亦は紙でも貼付て讀まぬやうにせねばなりません。ト  
マスが基督に向ひ我が主よ我が神よ(約二十の二十八)と叫  
びたるとき。基督は其言葉を咎め黙して其言葉を受け納  
れ給ひたるを見てもキリストの神たることは明白です。併



神と言ふ言葉は甚だ紛れ易い言葉であつて。彼の詩人が  
 奇峯萬仞霄漢を摩し自然の美を顯はして居るを見て其の  
 形容に困り「オ、神よ」と叫ぶことがあります。亦英雄豪傑の  
 賛辭として神と呼ぶ様なこともありますが。基督を神と呼  
 ぶ人の内にも神と同質同位同躰であると言へず。單に人間  
 の内にて非常なる徳を備へ玉ふ君子である。非常なる豪傑  
 であると言へず。信する人があります。我々はキリストの言葉  
 信じてキリストは三一合躰の神の一にして。其權威に於ても  
 其智識に於ても毫釐の差異はありませむ。即ちキリストは  
 神。神は即ち基督である。信じます。今其理由を述べませう。  
 第一 基督は永遠無窮に存在し玉ひます。先祖アブラハム  
 基督世に在せしとき猶太人に向ひ「爾曹の先祖アブラハム

は我日を見んことを喜び且之を見て樂めりと言ひ玉ひし  
 とき猶太人は「爾齡未だ五十に盈たざるにアブラハムを  
 見じや」と問ひます。基督は亦誠に實に爾曹に告げん我は  
 アブラハムの在らざりし先より在者なり「約八の二十六よ  
 り二十八)亦弟子に向ひ「我父より出で世に臨めり復世を離  
 れて天に住ん」(約十六の二十八)と言ひ玉ひました。之れに據  
 りてキリストは永遠無窮に存在し玉ふことは明白です。  
 第二 基督の存在する所はあります。地に於て心を  
 基督其弟子に言けらく「爾曹の内二人のもの地に於て心を  
 合せ何事にても求めば天に在す我父は彼等の爲めに之を  
 成し玉ふ可し蓋は我が名の爲めに二三人の集まる處には  
 我も其中に在ばなり」と(馬太十八十九と二十)亦キリスト天

に登らんとし玉ひたるるとき弟子徒を祝し「爾曹行て万国の民にバプテスマを施し之れを父と子と聖靈の名に入れて弟子となし且我が凡て爾曹に命ぜし言を守れと彼等に教へよまた我は世の末まで爾曹と偕に在なり」(馬太二十八の十九二十)と言ひ玉ひしを見ますれば今日基督は何處へでも存在します、  
第三 基督は全智全能です  
神に有さずば如何で人の心中を見稜ことができませうか。キリストが常に人の心中を知り玉ひたる事が四福音書中に明白に記載してあります。或學者たちが其心にキリストを疑つて居りましたが基督は其心を知り玉ふて「爾曹如何なれば心に悪き事を懐ふや」と言ひ玉ひました(馬太九の

四)亦「ナタナエルの例を見ても基督は全智にましませしこととが解ります、斯の如くキリストは全智のみならず亦全能の御方であります。其全能なることは其奇跡を見て明瞭です。亦基督は「父の死せし者を甦らせて生しむる如く子も己れの意に従ひて人を生しむべし」(約五の二十一)父と我とは一なり」(約十。三十)父の持ち玉ふものは我屬なり(約十六の十五)とあります  
第四 基督には變化がありません  
人の心は秋の空實に變り易ひものです。然るにキリストは「昨日も今日も永遠變らざるなり」(希伯十三の八)とあります。故に世は如何に變るとも基督は變ることにはありません。以上述べました所を能く考へて見ますと、基督は眞實

神にましまして何ふしても英勇であるとか。豪傑であるとか。君子であるとか。言て人間と見倣いことができませむ。信者が基督を神と信ずるのは決して忘信ではありませむ。信すべき理由であつて始めて信ずるのである。

第四章 キリストは人間の範囲内に入る

如何なる君子でも豪傑でも均しく人間です。必ず其生れたる國の風俗に支配せらるゝは當然のことです。基督が若し人間に属して居るものならば、其生國其生長したる猶太國の風習に染みて感化せらるゝは當然のことであつて教育を受けましても、其生國の風俗にも染みず習慣

にも靡かず。風俗習慣の外に歩行して世の風潮に逆ひ。一人にて輿論を喚起し。他人の助を借らず一人にて大事業を成遂げ玉ひたるを見ては何ふあつても人間の範囲内に入る。とはできませんまい。基督は今を去ること千九百年前猶太のベツルヘムに生れ。三十年間ナザレの山間僻村に。大工の職をなし玉ひ肉骸の父を助けて其孝を盡し。人の盡すべき義務を致へ。我々人間の代表者となられました。これより基督は果して人間の範囲内に属すべき者なるや否やを説きたいと思ひます。

第一 基督は猶太人

ソクラテスは希臘人。モーセは猶太人。シセロは羅馬人。釋伽は印度人。孔子は支那人。ルーツは獨逸人。カルピンは佛國

人。ワシントンには亞米利加人です。如何に永く日本人は米國に住居して居ても矢張日本人です。決して米國人と變ずることとは出来ませむ。ルイナルは其性質上横から見ても縦から見ても其強き所も其弱き所も即ち獨逸人です。孔子は日本に來ませうが朝鮮に行きませうが即ち支那人です。例令其國の言葉を話し其國の衣服を着ましても矢張支那人です。基督は猶太の國に産れ其國の空氣を呼吸し其國の生産物に處て衣食し其國の教育を受け常に其國人と交り其事業は其生國に於てなし玉ひました。其國の性質を帯びず。パロの如く我は猶太人なりと誇らず基督は常に我は人の子なりと宣たまひしことを見て猶太人と言ふことができません。か。

第二 基督の性質  
人は生質に順て偏するのは當然のことです。故にペテロは事に臨んで臆せず勇氣凛々恰も野猪の原野を馳くる如き性質が有りました。其物に永續のせぬ癖が有りました。約翰は是とは丸で違て總て事をなすのに非常に用心をし考へて亦考へ柔和にして思慮深き性質であります。因循姑息に流る癖が有りました。パウロは容易に事を決断しませむが。一度心に決してなさんどするときは例令火が降らうが鎗が降ふが斷々乎として一歩も退かず。岩石の如き實に堅固な性質が有ります。頑固に流る癖が有りました。基督はペテロの如くヨハチの如くパウロの如く一方に偏する癖がある御方ではありませむ。或時にはペテロを表は

し。或時にはヨハナを顯はし。或時にはパトリクを彰はし玉ひ  
ましたことを見ますれば。基督の性質は完全なるものです。  
圓滿なものです。一方に重く一方に軽きものではありませ  
む。基督がエルサレムに於て商人を追ひ拂ひ玉ひたるとき  
の勇氣果斷。赤兒を撫ぜ愛しみ亦病人を醫し玉ひたるとき  
の柔和優美の性は。圓滿なものとは言へますまいか。

第三 基督の教育

「ナザレより何の善き者いであんや」とは。彼のナマナエルがキ  
リストのことばをばピリポと談話中。ピリポが與へた答へで  
ありました。何故なればナザレは昔より英勇豪傑を出した  
ることもなく。且つ當時ナザレ人とし言へば非常に擯斥さ  
れたものでありましたからです。基督は幼稚より學校にあ

りて教育を受け玉ひたるにもあらず。亦エルサレムの神學  
校に入學して。ガマリエル亦はシヤマイに學びたるにもあ  
らず。當時隆盛を極めたるパリサイの學派にも屬せず。亦サ  
ドカイの學派にも屬せず。獨學にして學者の口を塞しめ。其  
教理を説き玉ひたるときなどは。見し人聽し人は。何うして  
此人は學しか。何うして智識を得しやと。非常に驚きました。

第四 基督の交際

人性の點から論じて基督と其母との關係については一點  
の非難する所はありませむ。けれども救世主としては假令  
自分の母でも己の命令に従はしめました。實に奇跡なことは  
自分の母を指して「我が母よ」と呼び玉ひしことは。四福音書  
中一度も見へて居りませむ。常に己れの母マリヤを呼ぶに

「女」と呼び玉ひました。亦己れの弟子の關係に於ても愛深く情厚くありましたけれども其交際の裡には威嚴の光が常に輝いて居りました。けれども亦己れの弟子を朋友と呼び。謙遜の貴重なることを教へんが爲めに。自から弟子の足を洗ひ玉ひ。且つ無學文盲なるガリラヤの漁師をも用ひ玉ひて。人類の最も高尚なる教師の職を與へました。斯言ふ例は何處にありませうか。

基督は亦赤兒にも親しき友でありました。己れの側に來りし赤兒の頭に手を置きて之れを祝し。願て公衆に告げて「天國に入らんとする者は斯くあるべし」と言ひ。亦當時婦人とし言へば獸の如くに思ひて擯斥したるも。基督は清淨潔白なる精神を以て彼等と交り。サマリヤの女は言ふ迄もなく。

マクダラのマリヤにまで廣大なる恵を施し玉ひて。卑められたる婦女の位置を高め玉ひました。之れ實にキリストの外例のあらざることです。

第五 基督の清淨潔白

罪惡の充滿する世界にあつて一の汚點だに附けざる無垢完全の御方は廣き此世界に基督の外唯の一人もありません。うか。基督を小羊と言ひ亦鳩と呼びしことは即ち基督の清淨潔白を表はすに最も適當したる譬諭です。基督の潔白なることは敵ですら其疵の発見することが出来ませむでした。御覽なさい常にキリストと共に衣食し。キリストの過失を発見するに努めたるイスカリオテのユダすらキリストの過失を発見するに努めたるユダすらキリスト

んか。彼のポンテピラトは基督を裁判しまじたけれども。其罪を發見することができず。無罪を宣告しやうと思ひました。猶太人の激怒に打ち勝つことが出来ませず。終に手を洗ひてキリストの無罪を告白しつゝ、十字の刑に處しました。世界何所に清淨潔白完全圓滿。一點の汚なく。一點の欠けなき人がありませうか。

第六 基督の言行一致

基督は人倫の最も高尚なる最も清淨なる教へを教へ玉ひたる。と云ふ事は。基督をば神と信ぜぬ道理派の人々でも異論はありませぬ。馬太傳の五六七の三章にある基督の山の説教のみにて。孔子や釋伽やソラスマスやソクラテスなどの教へたる道德の真理よりも遙かに深遠高尚にして且

つ其價値も遙かに秀でて居るを認めます。基督をば古今の聖人とでも言はるゝ者と比較して高大なる差違のあるのは。基督は倫理學を教へ玉ふ計りでなく。身自から其教へ玉ひたる所を實際に行ひ玉ひたることです。即ち基督の一生涯は活きたる説教でした。シセロと言へば羅馬人の聖人中の聖人。君子中の君子と思つて居りましたが。其シセロは自分の一生涯中に完全なる人は未だ見たことがないと言ひました。若しもシセロが基督に逢ふか。亦は基督の一代記でも讀みましたなれば。基督こそ完全無欠の聖人である。否な人間以上の者であると叫びませう。

第七 基督の事業

基督は齡三十にして事業を創められ。三十三才にして此世

を去られましたが。此三ヶ年間の短日月に實行ひ玉ひたる  
事業は實に驚愕の外他に言葉はありませむ。基督の事業を  
創め玉ふや。世の豪傑と言はるゝ者の様に兵器を以て自分  
の權威に服せしめたのではありませむ。世に所謂聖人君子  
の様に學力亦は能辨を以て弟子を集め玉ふたのではあり  
ませむ。アレキザンデル。カイザル。ナポレオンの様に。金力亦  
は兵力も無くして數百萬の人を己れの幕下に從へ。學力亦  
は能辨なくして凡て世界中の學者詩人を一に集たよりも  
多くの眞理を輝かせました。猶太の寒村ベスレヘムの馬小  
屋に産たるキリスト。盜賊と共に十字刑に處せられたるキ  
リスト。今は文明世界の運命を支配して居ります。全世界の  
三分の一よりも多き人民を支配して居ります。斯の如き豪

傑斯の如き聖人は抑々亦何處にありませうか。  
第八 基督の死

佛國の哲學者ルソーは「ソクラテスの死若し聖人の如く  
なれば基督の死は神の如し」と言ふたさうですが。實にキ  
リストの死は尋常一般の死ではありませんでした。彼の最  
も卑むべき十字架に上げられ。目も當られぬ無殘なる死に  
逢ひ玉ひましたけれども。自若として恐ることなく。柔和に  
して權威を示され。鎗を以て己れを刺す者の爲めに神に祈  
り其の贖罪を求め。我事業既に終りと言ひ玉ひて死に就か  
れたるを見て。彼の羅馬の役人ですら「此人は人間にあらざ  
神なり」と言はしむる程。基督の最期に就て非常な感情を與  
へました。



以上述べましたキリスト品性の大畧をお読みなされて如何に判断なされますか。是でもキリストは支那の孔子印度の釋伽などと同一視して矢張人間の範圍内に屬するものであると言はれませうか。キリストの品性を研究すればする程光が出てきます。如何に道理上から論じましてもキリストは何うしても人間の部に入るゝことが出来ませむ。即ち神です。我々が基督を神と信ずるのは深き理由のあることとです。

第五章 基督は歴史上神として  
 崇拜されて來ました  
 尊敬と禮拜とは同一視することが出来ませむ。尊敬とは徳高く行厚く通常一般の人より秀でたる者に對して彰はす

の意であります。禮拜とは人間より以上のもの即ち神に對して表はすの意であります。歴史上今日迄基督を神として禮拜したことはありません。今日キリストを神として禮拜するのは未來の歴史に表れることであつて。過去の歴史即ちキリスト在世の頃に絶てないことであつたでせうか。私は此の章に於て簡短にキリスト在世の頃より今日に到るまでキリストを神とし禮拜したる歴史上の事實を述べませう。

キリスト未だベツレヘムの馬小屋に居まし玉ひたるどきに。東方より博士來て禮拜したることは明白なことです。亦キリストがユダヤ。サマリヤ。ガラリヤに傳道されたるどきに。癩病醫され。盲者見るとを得。死人蘇生し。其他種々様々な

ものが醫されたるに。神と叫び地に伏してキリストを  
禮拜しました其例は一々枚擧するに違がありませむ。此等  
の人々はキリストを尊敬したのではありませむ。神として  
禮拜したのです。若しキリストが神でなかつたときは此等  
の禮拜を承諾する筈はありませむ。亦キリストが此世を去  
り玉ひたる後に弟子等もキリストに祈りたることを明白  
なことです。彼のステパナが基督の爲めに石を以て打殺さ  
れたときは。キリストに祈を献げ其祈禱に依て安慰を得た  
ることば。明々白白々争ふことのできない事實です。唯に使徒  
時代ばかりではありませむ。一期に於ても二期に於ても。キ  
リストを神と信ずるは使徒時代後の教會の生命でありま

した。信仰信條を見るも。讚美歌を見るも。亦當時學者の著述  
したるものをみるも。キリストの神たることを否みたるこ  
ともなく。亦キリスト信者が其身を犠牲に供したるも。皆之  
れキリストを神と信じて居た理由でした。殉教者ピヨニヤ  
スが法庭に出て裁判官より汝は如何なる神を信するやと  
問れましたときに。彼れは少しも恐れず自若として天をば  
輝く星を以て飾り地をば香ばしき花を以て裝ふ神を信ず  
と言ひましたときに。裁判官は再び問ひまして其神とは十  
字刑に處せられたるキリストを指すかと言ひましたとき  
に。ピヨニヤスは然り世の救世者として父なる神の遣はし  
玉ひたるイエスを言ふのであると言ひました。斯の如く昔  
より今日までキリストの爲めに。火に焼れ水に溺れ亦は十

字架に處せられて何の苦もなく否却て喜むで死に就たのは何にも別に理由のあることでもありませんでした。即ちキリストを神と信じたからです。亦今日歐洲各國に於て巨萬の金圓を費やし廣大なる會堂を建築してあるのは皆之れキリストの神を禮拜する會堂です。昔より今日に到るまで詩人が全幅の精神を盡してキリストの品性を描かんとし。畫工が數十年の長き月日を艱難辛苦に費やし。彫刻者が手に豆を生らへてキリストの像を彫刻して今日博物館に備へてあるのは。キリストの神たることを表したいと言ふ一片の赤心からでした。キリストの神たることは歐洲各國民の惱裡に染み込れたることでもあります。キリストと言ふ名ほど今日全世界に勢力を占むる名はありますまい。若しも

キリストが神でありませむなれば。キリストのことにつき。昔より今日に到るまで歴史の上に表はれたる事柄は皆な虚言であると言はねばなりません。基督を神として讚美したる歌や。數百萬の人々が信じたる信仰箇條は反古に屬するものであります。キリストの名の爲めに殺されたる人々は皆犬死ですか。詩人が吟じた詩は夢でありましたか。畫工の描たキリストの肖像は間違でありましたか。若しも歴史からキリストを取除ひたなれば。歴史は即ち光を失つたものです。即ち反古に屬します。恐くは歐洲各國の歴史を作りなほさなければなりません。キリストの神たることは歴史上の事實です。決して否むことが出来ませむ。否火を以て燒き盡すことも出来ませむ。此の一事でも歴史上に眼のあ

るものは。キリストの神たることを容易に信ずることができませうと思ひます。

第六章 基督の神たることはキリスト教

基督教に於ける基督は家屋に於ける柱石です。身体に於ける頭です。扇子に於ける要です。基督教はキリストの土臺に建築されたる家屋です。基督が眞に父なる神聖なる神と同一の體にあらざして、其位の低きもの即ち人間部に屬するものとしませうすれば、基督の教へ玉ひたる教理上に一大變動を來します。基礎が傾けば其家の歪むのは當然です。キリストが神でなかつたときは基督教の價値は落ちます。依て起る所の決果は如何せうか。今其大畧を述べませう。

第一 基督が神でないとしませうれば預言者即ち教師たる

孔子は如何なる君子であらうか。聖人であらうか。其教へたることは完全無缺なるものでありませぬ。多少の誤謬もあり、亦深遠に達すことのできなかつた所もありました。獨り孔子ばかりではありませぬ。印度の釋迦、希臘のソクラテス、羅馬のセチカも均しく欠點がありませぬ。即ち人間でありませぬ。如何に聖人であらうか。人間である以上は如何に君子であらうか。如何に聖人であらうか。論より證據。今日誰一人其の教へたる者は完全無缺圓滿の者である。一點の誤がないと信ずる者はありませぬ。斯の如く若し基督をして人間であると斷

定したときには。無論多少の誤謬あるを免ることも出来ませむ。如何に先見に富む人であつても。數百年否數千年に起る可き出來事をば。恰も明鏡が物を映す如くに。判然に明瞭に説き示すことはできません。いけれども人間の及ばざる所をなし。人間の知り得べからざることを知り得る者がありますとすれば。即ち神であります。我々が基督を完全なるものとするのはキリストを神とするからです。即ち人類の完全なる模倣としますので。

第二 基督が神でないとしませれば。祭司の職務即ち贖罪者となる。價値はありませむ。

エルサレムの監督シリイルは「我々の爲めに死に玉ひたる

基督は人間にあらざ神なるが故に萬國民の救はるゝことは當然のことなり」と言ひ。亦監督アンツルスは「基督の死に價値を置く理由は神にまでこの献物をなせし者は神なるが故である」と言ひました。が。若しキリストが人間にして其死に玉ひたるは。唯人間の死でありますれば。ソクラテスの死や。佐倉宗五郎の死と何の異なる所がありますか。何故にキリストの死が之らの者と異なるのですか。約翰が「イエス、キリストの血總ての罪より我儕を潔む」と言ひましたのは。神なる基督が肉を取り玉ひて我儕人間の内に宿り。我儕の爲めに十字架に處せられて。完全なる贖罪の道を設け玉ひましたから。キリストの死に高大なる價値のある所以です。亦基督信者が基督の命じ玉ひたる晩餐の禮典を守るのは。

決してキリストの死ばかりを紀念するばかりではありませむ。晩餐の禮典には神の恵みを蒙りキリストと靈の交り  
 をなすことが出來ますからであります。其貴重なるは之れ  
 を命じ玉ひました御方は神でましますと言ふことを信ず  
 ることであります。若しキリストが神にましますれば。  
 何の價値が晩餐の禮典にありませぬかあるはずはありませ  
 む。

第三 基督が神をなかつたときは帝王の職務  
 基督即ち人間を支配する勢力がありませむ  
 基督を王の王の帝と呼びますのは。基督王國に於て全權  
 を握り萬民を支配する權理があるからです。キリストの權  
 力がカイザルヤアレキサンドルヤナポレオンより遙かに

秀で居り其差は雲泥の如くであり。且亦人間の心までも  
 支配するの權力があつたならば如何にして今日の如く  
 です。基督が若し人であつたならば如何にして今日の如く  
 其王國を堅固に創設することが出來ますか。如何に萬國民  
 がキリストに服従することか。彼が如何に萬國民  
 が時めかしたるときには。雲の如く蟻の如く群集して彼の  
 權下に居りましたか。一旦事破れて絶海の孤島セント、ヘン  
 ナに流され。月に嘯ひて斷腸の懷をなして居たときは。誰  
 ら一人彼が爲めに死する者がありましたか。然るにキリス  
 トがガアルパリの麓に於て。十字架の死を遂げ玉ひたる以  
 來。キリストの名の爲めに幾百人が其身を犠牲にしたか。我  
 々の指を屈し。數ふるに。追がかりませむ。之れキリストが王

の王帝の帝。即ち神たるわけでありませうからです。以上述べました通り若しキリストを神でないと思ふならば、基督教の柱石を取り除いたと同然です。我々の信仰上非常の影響を及すは理の當然です。若しもキリストを神でないと思ふすれば、基督教に何の價値がありますか。恐らくは人の造つた宗教と異なる所はありますまい。

第七章 結論

第二章に於ては神の三一合躰の教理。第三章に於てはキリストの神性。第四章に於てはキリストの人性。第五章に於ては歴史上のキリスト。第六章に於ては實際上キリストは神でなければならぬことを述べましたから。我々のキリストを神と信ずるのは妄信にあらず。信すべき理由のありて信

ずることは明亮であると思ひます。キリストの神たることを信ずる以上は、宇宙に眞神の存在を言ふことを信ずるは適當のことです。宇宙に神が居ますや否を知らんとすれば、キリストの品性を研究するに如くはありませぬ。キリストを知るは即ち神を知ると同様です。キリストを見たる者は即ち神を見たる者です。深遠高尚なる神のことを學び永遠の眞理を求めんと欲する者は、キリストを學ぶの外他に道はありません。キリストは人間の運命をトする御方です。キリストの神たることが明亮となる以上は無神論は道理に反して來ます。勿論萬有神説は空論になります。亦キリストの神たることを信ずるには神の助を受くるにあらずれば容易に悟ることができません。昔ペテロがキリ

ストを神と認めたるは。其血肉即ち彼の産れ付きの性が。キ  
リストを神と認たのではありませむ。天よりの助けを受け  
其靈に感じたからです。其の如く今日でもキリストを知る  
のには如何しても神の助がなければ知ることが出来ませ  
む。

明治廿四年四月五日印刷  
同 年同月 廿三日 出版

定 價 金 五 錢

兼著作者  
兼發行者

田 村 直 臣

東京麹町區有樂町二丁目  
三番地

印刷者

島 連 太 郎

東京京橋區西紺屋町  
廿六番地

印刷所

秀 英 舍

東京京橋區西紺屋町  
廿六七番地

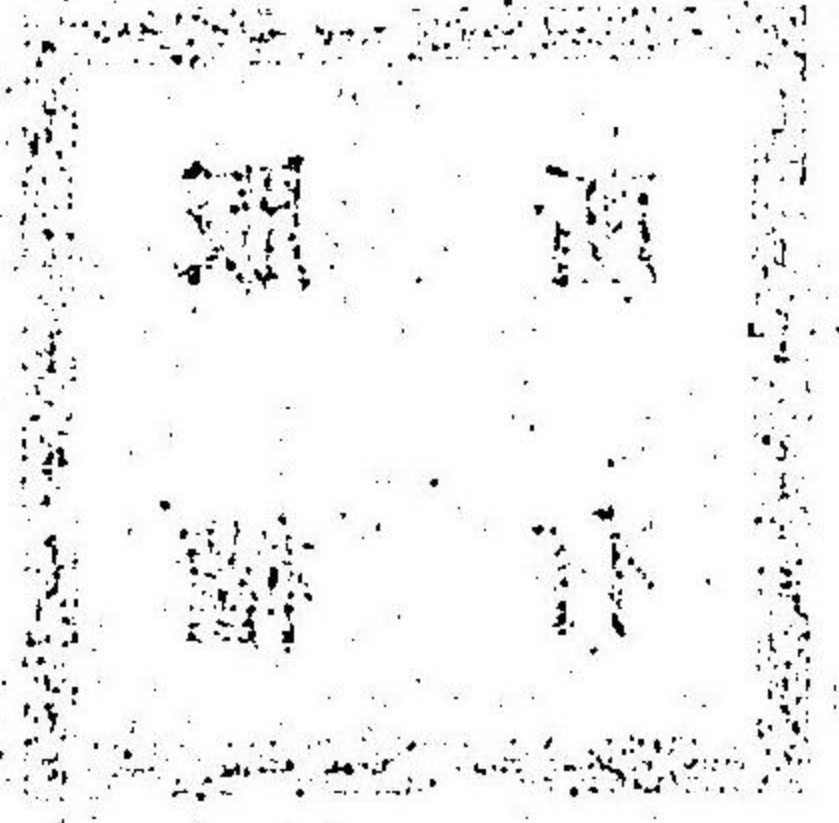
賣捌所

警 醒 社

東京京橋區出雲町壹  
番地

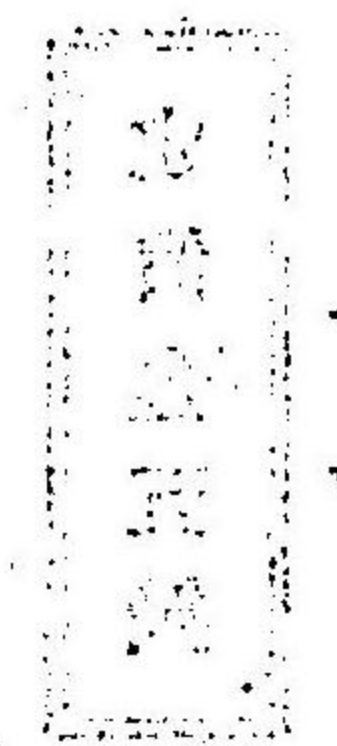


GT-85



國立中央圖書館  
藏書

中華民國  
三十四年  
五月



中華民國  
三十四年  
五月  
...

9  
3

基督の神たる事を信ずる  
理由

国立国会図書館

020565-000-5

特49-803

基督の神たる事を信ずる理由

田村 直臣/著

M24

ABI-0379



特

8